

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜令和元年度 事業計画＞

鶴岡市三瀬地区 木質バイオマスエネルギー 自給自足活動事業

鶴岡市三瀬地区自治会

2019.4.16

①取組で目指す地域像

2022年度末
地域の状態

- 自治会の取組が地域住民に理解され、一般家庭で地域材の活用が増える。
- 保育園・小学校・中学校の授業やイベントに地域の取組や里山を学ぶ・触れ合う時間がある。
- 栽培漁業センターの設備の更新に伴い、薪ボイラー等の導入の提案を行い、実現に向けて検討が行われる。

2019年度末
地域の状態

- 取組紹介のニューズペーパーを地域住民に定期的に配信することにより、自治会の取組、里山の状況の理解が深まる。
- 避難道整備やイベントを通じて自治会の取組やSDGsの理解が地域住民に浸透する。
- 高齢者福祉施設や、地域の大型施設への地域の取組の理解を深めてもらうアプローチを行い、今後再生可能エネルギーの導入に担当者が前向きになっている。



2018年度末
地域の状態

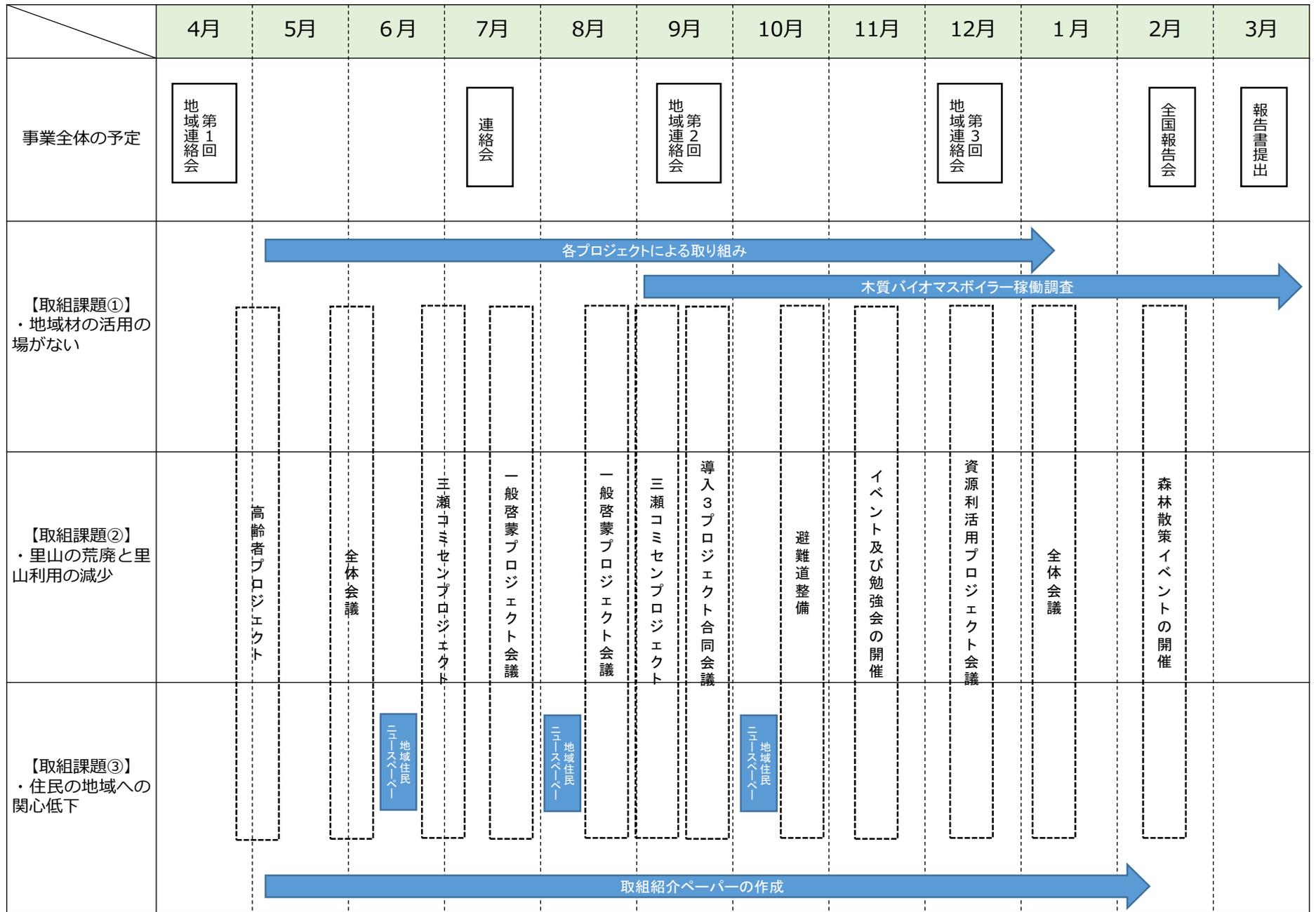
- プロジェクトや勉強会を通じて新たなステークホルダーを巻き込むことができた。
- SDGs勉強会の機会に鶴岡市のこれまで関わりのなかった課の職員の参加や、区長の参加が得られ、取り組みの理解が進んだ。
- 鶴岡市が改訂した総合計画にSDGsの文言が反映され勉強会の影響があった。
- 地域材活用の場として、三瀬保育園に薪ボイラーが導入された。



③ 2019年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】 ・地域材の活用がない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を地域内で活用するモデルの一つとして、薪ボイラーを導入した三瀬保育園で薪ボイラー使用におけるコスト面の数値のデータをとる。 ・高齢者福祉施設との連携において、本部である社会福祉協議会へアプローチをかけ、取り組みの理解を得る。 ・三瀬地区コミュニティーセンターの薪ボイラー導入について、2020年度内に導入は決定しているが、現計画ではホールの暖房をまかなうボイラーの導入にとどまっているため、全館冷暖房できる薪ボイラー導入を鶴岡市に提案し、計画に組み込まれる。 ・薪ボイラー・ストーブの導入及び導入計画により、森林に再生可能エネルギーとしての価値が見直され、地域住民の森林への関心が高まる。
<p>【取組課題②】 ・里山の荒廃と里山利用の減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の里山の状況の理解がイベント等を行い理解を図る。 ・地域の森林資源搬出・再造林の進捗を確認する。 ・山の整備・管理されている方や今後対象に考えている方、一緒に管理して欲しい方等を対象にした交流の場を作り継続的な管理体制をめざす。 ・ステークホルダーである地元の企業が管理する山が、学びの場として活用される。 ・里山の間伐などの整備を行いつつ、間伐材が薪やチップへと加工され、販売される。
<p>【取組課題③】 ・住民の地域への関心低下</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に関わるステークホルダーや薪ボイラー・薪ストーブ導入施設の関係者がSDGsを理解している。 ・地域住民に取り組みを紹介するニュースペーパーを作成し、年2.3回程度回覧板等と一緒に配布することにより地域住民の理解・関心が深まる。 ・地域内外に地域の取組を発信するため、取り組みが一目でわかるペーパーを作成し、地域外の認知度が高まる。 ・保育園で環境教育を行うことにより、保護者への木質バイオマスエネルギーへの関心が高まる。またそこに地域の多くの方が関わることでコミュニティ・協働が生まれる。

④ 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）



⑤ 2カ年事業計画（H30.8）からの変更点

計画の変更点（項目）	変更した理由
豊浦小学校・中学校の巻き込み	小中学校の授業で自治会の担当者が、自治会の取り組み紹介を行っており、小学校では毎年地域材を加工した木質チップを津波避難道にまく取り組みも行っており事業との関わりが出てきている。さらに先生方や保護者へ地域の取組の理解を深めてもらい、学校・生徒が取組や里山との関わり、ふれあいが増えるよう、連絡会等へ校長先生をはじめ先生方、保護者の参加を促す。
高齢者福祉施設との連携	高齢者福祉施設利用者を対象に、薪ストーブや山の散策等のイベント参加・体験をしていただき、福祉施設への薪ボイラーまたは薪ストーブの導入を検討していただくことを考えていたが、高齢者福祉施設を利用している方の多くは介助が必要であることから安全面を考慮し、利用者から経営者等（鶴岡市社会福祉協議会、高齢者福祉施設代表者及び職員等）を対象に理解を得る取組に変更する。具体的には、訪問での説明及び職員向けのチラシ等の作成及び配布を行う。

⑥ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・地域住民に取り組みやSDGsとの関連性などを認知してもらうために、自然に受け入れてもらえるような見える化やマスコミの巻き込みなど工夫が必要である。
- ・薪ボイラー等の導入については、実際に導入するとなると費用や労力の面が大きく導入の阻害要因となっており、ステークホルダーを巻き込みながらフォローアップを考える必要がある。（費用に関しては、補助金の提案。労力に関しては地域の薪の供給の体制の提案など。）

■ その他、留意事項などがあればお書きください

- ・昨年度行ったSDGs勉強会に鶴岡市が参加した。勉強会后、市の施策にSDGsの文言を反映させる動きが見られた。しかしその後実際にどのようにSDGsを理解・活用しているのかを確認していないため、会議やイベントの際などにコミュニケーションを取りながら連携を強めていきたい。
- ・三瀬地区では数年前から地域ビジョンの策定に取り組んでおり、事業との親和性も高いことから、地域ビジョンで得られたデータなどを情報発信等に活かしたい。